

全ての葉の平均生長量は、初夏に 15.2~19.7mm/週であったが冬には 6.0~8.8mm/週と大きく低下した。葉長別の生長量をみると、初夏は 50mm までのもので 24.7~36.8mm/週 (中 10mm で区切った階級毎の平均値) の生長をするが、50~70mm で 13.5~15.0mm/週と低下し、それ以上では著しく鈍る。冬は、40mm までは 13.1~19.1mm/週の生長をするがそれ以上では急激な生長量の低下がみられた。生長に伴う生長量の変化や季節による生長量の違いは、リュウキュウアマモで観察されたのと同様であった (図-3)。

葉の寿命は、初夏で出芽率より求めた値 25.9日、枯死率より求めた値 27.9日とほぼ一致し、26~28日がこの時期の寿命であろう。冬では、リュウキュウアマモ同様、出芽率が枯死率を上回る現象があり、出芽率から求めた値は 44.6日であったが、枯死率から求めた値は 118.3日と両者にかなりの差があった。この時期の枯死率は、0.10~0.30 (枚/株・週) と極端に小さな値であるし、サンプル数も少ないので、枯死葉数の小さな変化も枯死率の大きな変化となり、その結果、算定する寿命も大きく違ってくる可能性もあるので、冬の葉の寿命は今回のデータからは推定することができない。しかし、冬の方が初夏よりも寿命が長いということはいえよう。

(2) リュウキュウアマモの生長様式

初夏の生長量調査時に、リュウキュウアマモは盛んに新しい株を形成した。その生長(増株)様式を図-4に示した。

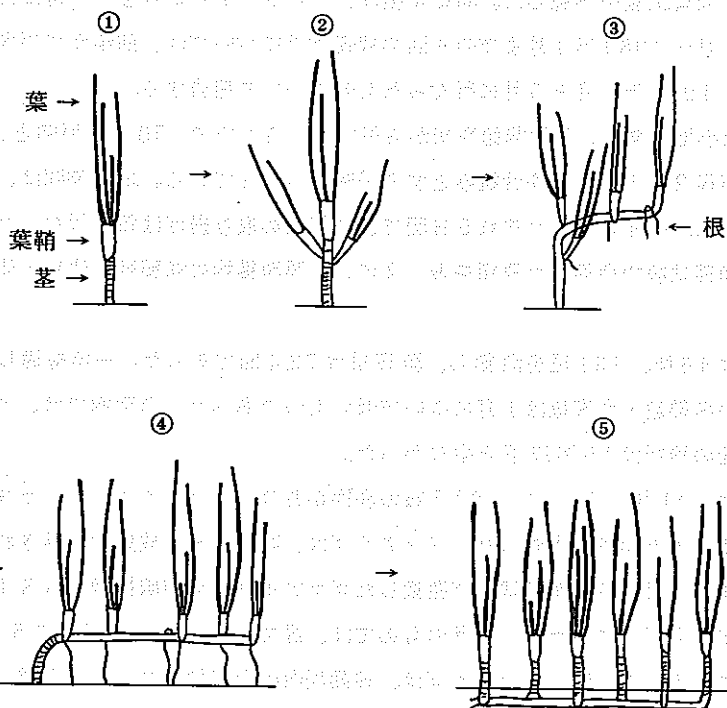


図-4. リュウキュウアマモの生長様式